

＝ 研究協議会記録（下学年） ＝

仙北市立角館小学校

年 月 日	平成27年11月17日（火）
場所・時間	分科会 13:00～14:30（2松教室）
授業学級・授業者	1松 築地 歩 3松 佐々木 ますみ
教科等	学級活動
議題・題材名	1松 学級活動（1）2年に「ありがとうの会」をしよう 3松 学級活動（2）赤・黄・緑バランスよく食べよう
指 導 者	1松 南教育事務所仙北出張所 指導主事 加藤 勝則 先生 3松 南教育事務所 指導主事 小西 力 先生
司 会 者	竹村 一郎
記 録 者	小西 美樹子

1松

<授業者より>

学校生活に慣れてきた1年生だが、話し合い活動は難しく、まだ教え育てている段階である。計画委員は順番に4人ずつ、やりたい役割を選ばせている。今日は緊張しながらがんばって参加していた。自分の意見を書いたノートがよりどころとなっていた。意見は書けても理由までは難しかった。時間内に決められるように強引に進めたところがあった。

<研究協議>

- A 流れに沿って進められていた。比べ合う場面で教師の適切なアドバイスがあってよかった。
- B ①と②それぞれに比べ合う場面があり、タイミングよく教師のアドバイスがあった。条件の提示もよかった。計画委員で話し合おうというまとめかたも納得できていた。
- C 記録の子に教師がキーワードを言って書かせていてよかった。司会・副司会も自分の役割を務めていた。
- D よく耳を傾けて聞いていた。意見を書いたシートがあると、教師側も発言や流れの把握ができていい。

・教師がアドバイスをしたタイミングについて

事前にシートを見てできるものばかりだと思っていたが、単発ではなく1つにまとめられないかなとその場で思いつき提案した。

・多数決について

自分の意見を表明する場としてとらえている。そういう考えの人が多いうめやすにしている。条件を与えて考えさせたのだから、うまくないものを納得させながら省いていくことをもっと進めてもよかった。多数決はなるべくとらずに、いい意見がどんどん増えて集団決定していくようにしたい。

3松

<授業者より>

（佐々木）4月に決めた題材だが、児童の実態はどんどん食べるようになり、給食を残すことが少なくなった。だから、どんな資料提示がいいのか迷った。残菜の写真と残している子もいるというアンケート結果から、このままでいいのかなと考えさせることにした。

自分のこととして具体的な目標を立てるとき、「嫌いなものも食べる」だけでなく「バランスよく食べる」大切さに気づくように栄養士さんとITでおこなった。

(田村栄養士) 5年生から学ぶ栄養学は少し難しい。1～4年生が実践的に栄養について学ぶ特活での食育があればいいと考えている。

<研究協議>

- A 自分のことを考えて決めていた。栄養士さんのお話のおかげで何が大切かも考えていた。
- B 資料が絞られていてつながりもよかった。提示のたびに子どもたちのつぶやきがありよかった。情報から解決方法を考えるところが難しかった。
- C 作戦を決めるまでに、ピンクのファイルに綴じた給食調べなどでいろいろ自分を振り返ることができていた。
- D 子ども同士の関わりがあった。人間関係がうまくいっている。グループの話し合いも効果的だった。

(佐々木) 個人の目標を、赤黄緑のバランスに持って行きたかったが、「今の自分」が大きすぎて〇〇を食べるように…と言う書き方が多かった。緑を強調した方がよかったのか迷いがある。

- ・1日つきあうだけでも大変な小学生としっかり授業ができていて素晴らしい。
- ・嫌いなものでも食べなければいけない理由がある～そういうことだったのではないか。
- ・答えを準備させたり、会話のキャッチボールの練習をしたり、そういう積み重ねが成長につながっていくことが分かった。(1年の授業にも共通)
- ・「給食を残さず食べよう」という学活かなと思ったが、家庭生活にも関係する内容なので。どこまでの自己決定だったのか。
～家庭まで入り込めない、そこまで学校側がやれない時代になっている。情報を与え家庭でもできる子はやってみようと言うところまでのつもりである。(佐々木)
- ・梅組で事前にやったときは、授業後、「家の夕食に緑があるね～と言う話題になった」と話す児童がいた。
- ・2週間の給食調べで自分の苦手なものが分かっている。何かで思い出し将来に生かせれば食育になると思う。家で食べないものを教えるのも給食のいいところ。(佐々木)
- ・具体的なめあてとはどんな内容を期待したものか。～苦手なものを順番に食べていこう
- ・TTが効果的だった。栄養士さんのお話で、課題に向かって一生懸命やろうとしていた。
- ・大作戦が工夫なのか。努力目標になっていたのではないか。牛乳で流し込むという方法は気になった。よくかんで食べることも大切。
- ・家庭の協力は必要。お便り等でよびかける。～がんばりチェック表を持ち帰るので、配慮してもらいたいことを伝える予定。
- ・バランスだけなら、赤黄緑でいいが、さらに量が増えた「食べ方ピラミッド」というものもある。

<指導助言>

加藤指導主事～1松～

- ・たくさんのお客さんの前でよくがんばっていた。「気持ち伝わる」というめあては、楽しいとか自分のことが先になる1年生にとって難しい。
- ・議題がよかった。異学年交流で2年生へのあこがれがあり、写真の提示も意欲付けになった。
- ・ノートに先生からの細やかなコメントがあった。出し合うところでもっと自分の意見を伝えられるといい。
- ・時間内に決めようとして多数決をとることがあるが、その前に十分な議論が必要。どこに時間をかけるかが大事。
- ・プレゼントのイメージが違っていけば話し合いがまとまらないので先生が出てきたが、1年生の段階の折り合いの付け方として「この中で合わせられるのではないかな」と問いかけることもできた。
- ・計画委員がよく育っていた。
- ・1年生として、きちんと出し合う比べるということを経験させる必要がある。決めることが2つあって組み合わせによっていろいろあるので難しい。発達段階を考えると盛り込んだことが多かった。どの部分を任せるか絞り込んでみるといい。折り合いを付ける場面なら、合わせることを考えさせる。
- ・話し合い活動のサイクルを繰り返し経験させていくことで、めざす姿に近づいていく。

小西指導主事～3松～

- ・緊張感で始まったが、だんだん活発になりグループでも温かい雰囲気でも話し合われていた。
- ・大きな3つの短冊が子どもたちの思考を助けていた。板書・興味を引く話題でいい流れを作っていた。
- ・田村先生がゲストティーチャーでなくTTとしてしっかり入り、栄養の大切さをわかりやす

- く説明していた。
- ・自己決定した目標をもっと発表させたかった。言った手前がんばらないと…と言う効果やアイデアを聞いて修正するきっかけにもなっただろう。
 - ・どういう自己決定をさせたかったのかがポイント。
 - ・実践カードがよかった。お家の人からの枠もあり，粘り強く指導して行ってほしい。
 - ・給食係の説明は，もっと出番があってもよかった。(2)でも先生のアシスタント・モニター役として子どもたちを活躍させていくといい。

学校を支えるのは特活 という熱い思いで粘り強く実践して行ってほしい。